

院内スタッフと入院時重症患者対応メディエーターの連携に関する研究

研究分担者 黒田 泰弘 香川大学医学部救急災害医学 教授

研究要旨：

院内スタッフと入院時重症患者対応メディエーターの連携がさらによりよくなり、臓器提供患者・家族への支援をより円滑にするために、ドナーコーディネーターの院内連携、地域連携を主眼とし、またドナーコーディネーターチームを構築できることを目的とした養成コースを企画した。コースは、1臓器提供の現状（講義15分）、2臓器提供の適応判断（講義およびグループワーク 20 分）、3臓器提供を見据えた患者管理（講義およびグループワーク 60 分）、4患者家族ケア/臓器提供の情報提供（講義およびグループワーク 90 分）、5臓器提供決断後の患者家族ケア（講義およびグループワーク 45 分）、6院内・地域での体制整備（講義およびグループワーク 60 分）、7質疑応答まとめ、から構成される。今後は試行コースのトライアル、試行コース、を経て本コース開催とする。

A. 研究目的

院内スタッフと入院時重症患者対応メディエーターの連携がさらによりよくなり、臓器提供患者・家族への支援をより円滑にするために、ドナーコーディネーターの院内連携、地域連携を主眼とし、またドナーコーディネーターチームを構築できることを目的とした養成コースを企画実行する。

B. 研究方法

日本集中治療医学会の臓器提供・臓器移植検討委員会および臓器移植検討ワーキンググループでWEB会議を年5回行った。地域ドナーコーディネーターチーム養成コース（新設）のコンテンツ、教え方、募集方法について検討した。

（倫理面への配慮）

教育コースの企画であり、倫理面での問題はな
いと判断する。

C. 研究結果

コースは、1臓器提供の現状（講義15分）、2臓器提供の適応判断（講義およびグループワーク20分）、3臓器提供を見据えた患者管理（講義およびグループワーク60分）、4患者家族ケア/臓器提供の情報提供（講義およびグループワーク90分）、5臓器提供決断後の患者家族ケア（講義およびグループワーク45分）、6院内・地域での体制整備（講義およびグループワーク60分）、7質疑応答まとめ、

から構成される。

今後は試行コースのトライアルにおいて委員およびワーキングメンバーでの内容の相互チェックを行う。その後JOT臓器提供施設連携体制構築事業の参加施設の受講生を対象として試行コースを行い、コースを評価していただいてさらに内容を修正する。その上で受講生を一般募集して本コースを運営する予定である。

D. 考察

本プログラムの参加予定者は集中治療に関わる多職種・多部門の医療スタッフを想定しており、これが一番重要なポイントである。研究代表者の横田が会長で主催する第22回日本組織移植学会学術集会（2024年8月18日）で本プログラムが紹介できるような機会、とくに入院時重症患者対応メディエーター養成講習会で紹介し、広く周知したい。

E. 結論

地域ドナーコーディネーターチーム養成コースのコンテンツを作成し、開催準備を行なった。

F. 健康危険情報

（分担研究報告書には記入せずに、総括研究報告書にまとめて記入）

G. 研究発表

1. 論文発表

なし

2. 学会発表

- ・パネルディスカッション 移植医療の舞台裏に迫る！臓器移植コーディネーターチームの活躍を知る. 第51回日本集中治療医学会学術集会. 札幌 2024年3月15日

H. 知的財産権の出願・登録状況

(予定を含む。)

1. 特許取得

なし

2. 実用新案登録

なし

3.その他

なし

